



## 花粉症治療の話

耳鼻咽喉科部長 鶴田 至宏

昨夏は記録的な猛暑のため、花芽の成長が著しく、今年の春の飛散は昨年の数倍と予想されています。花粉症の国民有病率は推定 約 13% で、7人に1人が花粉症ですが、実際に医療機関で治療を受けているのは、全体の3分の1程度です。そこで花粉症の代表的な治療法を2つご紹介します。

1つ目は、花粉症の症状を抑える薬物療法です。薬剤はたくさん種類がありますが、間違いないことは症状が出る前に抗アレルギー剤を服用する初期治療が有効な事です。早めに眠気などの起こらない相性の良い薬を見つけましょう。

2つ目は、アレルギー性鼻炎の症状の内、薬で治療しにくい鼻づまりを治療する手術療法で、レーザー手術か下甲介切除術を行います。前者は痛みもなく簡単ですが、効果発現に1ヶ月余りを要します。後者は、術後鼻の中に止血操作が要りますが、1週間ほどで効果が出ます。ともに日帰り治療が可能で、アレルギーの反応の場が減量され、くしゃみや鼻水も減ります。

